地域に活力、3本柱

大垣商議所 新年会見 経営支援事業を強化

大垣商工会議所は7日、新年記者会見を大垣市万石の大垣フォーラムホテルで開いた。堤俊彦会頭は、今年のキャッチフレーズを昨年に続き、「活かせ英知 地域に元気と活力を！」にするとした上で、経営支援事業を強化する方針を示した。

重点事業は▽中小・小規模企業への経営支援事業▽IT活用推進事業▽人材確保・育成事業―の3本柱。堤会頭は「行政や他の支援機関と連携し、事業計画の策定や実施をフォローする『伴走型』の支援に取り組む」と述べた。

経営支援事業の目玉は、起業資金の借入利息の50％を1年間支援する「創業資金利子補給事業」。大垣信用金庫、大垣共立銀行と連携し、会議所職員が借り入れの打ち合わせに同席するなどして、手厚く支援する。

また、IT活用の一環として、会議所議員が「経営者のおすすめグルメガイド（仮称）」を書き、会議所ホームページにブログ形式で掲載。まず20人が取材・執筆し、4月をめどにスタートする。

このほか、産業展への出展を支援するため、出展ノウハウを伝えるセミナーの開催などを新規事業とした。

副会頭3氏も発言。田口義隆氏は「地域の価値の再発見をテーマに、さまざまなことを発信していきたい」、栗田茂康氏は「知恵を出し合って行動し、成果を積み上げていきたい」、西脇史雄氏は「経営者との距離感を密にして、経営相談などで地域を支えたい」と述べた。

会見後、新春議員懇談会が行われ、財界人ら約140人が親交を深めた。



新年会見で経営支援事業を発表する堤俊彦会頭（中央）＝大垣市万石、大垣フォーラムホテル

無断複製・転載を禁じます